

戦争反対をつらぬいて91年

憲法9条生かし、 アジアの友好と平和をひろげます

日本共産党



日本共産党は、1922年の創立以来、天皇絶対の暗黒政治に抗して、侵略戦争反対、朝鮮・中国・台湾からの軍隊の完全撤退をいっかんしてかけました。その

立場から「二度と戦争をしない」「軍隊をもたない」ときめた憲法9条をまもるために、全力をあげています。9条を生かした外交で、アジアの友好と平和に力をつくします。

『いま、日本共産党』

反戦平和の歴史に熱い注目 ——志位委員長の本が韓国で出版

「2011年2月、某放送社の取材依頼で代々木にある日本共産党本舎を訪問し、志位委員長との単独インタビューをおこない、植民地支配の韓国・朝鮮の愛国者たちと連帯し、反帝国主義のたたかいを展開し

た初期日本共産党員のみなさんの活動の姿についての雄弁な証言を聞き、『必ず韓国社会にこの政党を紹介する本を翻訳しなければならぬ』と決意した」（翻訳者のホン・サンヒョン 洪相鉉さん）。

自民 「9条を書き変えるべき」

(安倍首相)

維新の会 「軍事国家になるべき」

(石原共同代表)

「国防軍を創設」など、戦争の時代に日本を逆戻りさせるような発言があいついでいます。安倍首相ら「超タカ派」は、9条改定にねらいをさだめ、まず96条（改憲手続き）から変えようとしています。「戦争をしない」と世界に公約した9条をまもってこそ、日本はアジアと世界で平和に貢献し、信頼を得ることができます。

靖国問題 侵略戦争の無反省は
世界で孤立

「歴史を忘却した時代錯誤的な行為」
「深い憂慮と遺憾」(韓国外務省報道官)
「日本の不要な国粋主義」(米・ニューヨーク
タイムズ紙電子版)

公明 橋下市長問責 反対し否決

「慰安婦」問題などをめぐり一連の発言で「市政を混乱させた」として、橋下大阪市長に対する問責決議が市議会に提案されました。しかし前日に賛成の意向を表明していた公明党は、“出直し市長選”の動きの中で反対に転じ、「維新」とともに否決しました。



橋下氏は「自分のいったことは正しい」と引き続き開き直っており、公人の資格はありません。公明党は「自らの政治的倫理的水準がどのようなものを満天下に示した」（日本共産党・志位和夫委員長）といえます。